

R5年度 北区自立支援協議会活動報告

1. 共通テーマにおける取り組み

□令和4年度に共通テーマの事例を検討した中で、令和5年度は二つの残った課題について解決していく。

【1】「障害を持つ親がいる世帯の子どもの居場所について」をテーマに、子ども食堂と意見交換会を実施する。

○子どもにとって必要な居場所であり、交流や食育の機能を持つ場として認識できた。

○必要な子どもに、どう情報を伝えるかが課題。学校の認識不足や、存在を知らない支援者も多い。

○運営資金が確保できず、月1~2回程度の開所の食堂が多い。

○担い手はボランティア中心になるが、大学生のボランティアによる学習支援などは有効活用できている。

【2】社会に出てから（18歳以降）お金の管理の課題が顕著となりトラブルに発展する方もいるが、本人の困り感が低い中でどう支援するかが課題。

○冊子「大切にしようお金ともの」（小学生向け）を障害児・者向けに改良し、お金や物の大切さを学ぶものとする。

○冊子の改良が一定終了したため、令和6年度は協議会メンバーを中心に冊子のワークを試みる。

<取り組みから見えてきたこと>

【1】子ども食堂は、地域の「困りごと」をキャッチできる場所を担えるが、専門職を配置したり等、運営面での資金不足が顕著であるため、現状はキャッチしたとしても必要な支援につながりにくい。

必要な人へ、正確な情報が伝えられるように、まずは支援者が把握しておく。

【2】お金の課題については、これまで支援の根本的な解決が難しかったが、お金や物の大切さを理解することで課題解決を目指したい。令和6年度は、冊子を利用したワークを試行的に運用し、どの程度の効果が望めるかを長期的に検証し、冊子のブラッシュアップを図っていく。

2. 北区独自の取り組み

□障害理解の啓発について

挙がってきた二事例を、どのように啓発するかを協議する。

【課題】

○啓発の対象者の絞り込み、啓発方法など、幅が広いと難しい側面がある。

○1件1件対応していくしかないことも多い。

○子どもの時からの触れ合い機会や体験などが効果的かもしれないが、キャップハンディ体験の機会は減っている。また身体障害者中心の体験になっている。

<取り組みから見えてきたこと>

○小学生向けに知的障害や発達障害の啓発を図りたいがツールがない。キャップハンディ体験や勉強会のようなことで、啓発できるツールづくりが望まれる。その場合、差別を誘発しないような配慮が必要になる。